1. 評 価 報 告 概 要 表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	1970101091
法人名	社会福祉法人　善隣会
事業所名	グループホーム山径
所在地	〒　400-0001　甲府市和田町2948-6 電話番号　055-237-3650

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2－12号		
訪問調査日	平成19年11月31日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】平成19年11月13日 事業所記入

（1）組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	8人	常勤　8人　非常勤　0人　常勤換算　0人	

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2　階建ての　0　～　2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	40,000　円		その他の経費（月額）	0　円
敷　金	□有（　　）		■無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	■有（　120,000　） □無		有りの場合 償却の有無	□　有 ■　無
食材料費	朝食	350　円	昼食	350　円
	夕食	450　円	おやつ	50　円
	または1日当たり　1200　円			

（4）利用者の概要　平成19年11月13日 現在

利用者人数		9 名	男性	4 名	女性　5 名
要介護1		1　名	要介護2	3　名	
要介護3		3　名	要介護4	2　名	
要介護5		0　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	83.5 歳	最低	71　歳	最高　98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	フジ内科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日　平成19年12月13日

四季の移り変わりを満喫できる森林の散歩コースの中に立地しているこのホームは、歴史ある特別養護老人ホームにデイサービスとグループホームが併設され、母体組織の協力とホーム独自の方針が確立され、利用者の立場にたった支援がなされている。地域から離れている事が利用者にとって不利にならないよう、地域への働きかけはもちろん、外部からの訪問者は後を絶たないほどである。また、職員同士が切磋琢磨して、もう一歩踏み込んだ支援にむけ独自の検討方法がなされている。一方、利用者にとって、何時でも好きな時間帯に入浴可能な事や、一年に一回、外泊をする温泉旅行などが実施されている。このような実践と共に、今後も、地域密着型サービスとして地域との関係性を深める取り組みに期待ができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の改善点は、併設のデイサービスとグループホームとの入口が区別できない件で、職員も含めて検討し、入口の字がわかりやすいような方法が取られた。また、昨年度までの運営理念が、職員や利用者にわかり易い言葉で伝えるようにとの改善点を、早速検討課題に取り上げ、入口やホーム内に、皆で作り上げた理念を掲示した。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** まず職員一人ひとりの気づきを評価してもらい、それをスタッフ会議に図り話し合われた経過の中で、職員たちは日頃の介護に関し、反省し振り返る機会となっている。運営者も、積極的に評価に加わり、ホーム運営の要を担っている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 出席者の調整が難しいこともあり、年に3回の開催の中で、外部評価改善項目についての説明と、改善に向けての取り組みが話し合われた。また、地域との交流に、自治会の掲示板をホームの案内などに使用してみることの助言など、身になる会議に繋がっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 1ヶ月に一回、山径通信を発行し、一人ひとりの利用者にあった話題や様子を載せ家族に郵送されている。家族からの意見や不満に対し、職員一人で対応せず、職員全員で話し合い統一した見解を、家族へ説明している。まずは気持ちを受け入れ、家族の立場に立って対応がなされている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 立地条件が地域の高台にあることから、その事が利用者にとってマイナスにならないよう、外部からの訪問者も多く、小学生の福祉の授業として受け入れたり、ボランティアとしても受け入れている。また、ホームから地域への働きかけも、自治会に加入し、三世代で作るほうとう祭りに招かれたり、保育園の運動会にも招待されるなど、できる限り情報を集め、地域との連携に取り組んでいる。

2. 調 査 報 告 書

事業所名：グループホーム山径

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までの家庭的な環境の下での理念は、よく理解し実践されている。しかし、地域密着型サービスとしての理念づくりはこれからである。運営者や職員は、環境はよいが地域との関わりには条件が厳しい事を十分に認識し、常に視野に入れている。	○	現在地域住民との関係性を図るため、前向きな姿勢に見受けられる。地域密着型サービスとして、役割を盛り込み、独自の理念を職員と一緒に練り上げて作成してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念は、これからである。	○	運営者、リーダー、職員全員で作り上げた理念を、介護の実践の中に活かし、言葉かけや態度など、意識して取り組まれることを期待する。また、簡単な言葉にまとめ掲示し、介護の現場で活かすことが望まれる。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域から離れていることが利用者にとって不利にならないよう外部との交流は盛んである。ホームから地域への働きかけも、運営推進会議などを通して、自治会の掲示版の活用を促され、実践につながっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員全員が一人ひとりの評価を行い、スタッフ会議で話しあわれた経過の中で、職員たちは反省し振り返る機会となっている。前回の外部評価を、スタッフ全員や運営推進会議などに図り、改善に向けた取り組みがなされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回の開催の中で、外部評価改善項目の説明と、改善への取り組みを、会議にかけ検討している。また、地域との交流に、自治会の掲示板をホームの案内などに使用してみることの助言など、身になる会議となっている。	○	調整が難しいこともあり、2ヶ月に一回会議が開催されていない。全員の出席が難しい場合、欠席者の意見を前もっていただいたり、後日報告するような方法などもある。年間計画を立てることにより、開催時期の調整をするなど検討願いたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法律が頻繁に変わる中で、市との関わりは必然的であることを運営者や職員は認識している。地域密着型サービスとしてのホームへの入居問題など、相談や情報提供など市との関係作りは良好である。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一ヶ月に一回、山径通信を発行し、一人ひとりにあった話題や様子を載せ、通帳のコピーや、新職員の紹介など家族に郵送される。また、一年間のホームでの様子を写真にしたアルバムを、利用者の誕生日にプレゼントして、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	病院に連れて行って欲しいとか、食物に関する要望など、家族からの意見や不満に対し、職員一人で聴かず、職員全員で話し合い統一した見解を、家族へ説明している。まずは気持ちを受け入れ、家族の立場に立って対応がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の担当一人に対して、利用者一人か二人とし、馴染みの関係を作ることを推進している。現在、職員の異動は頻繁には行われていないが、交代時には引継ぎの期間を十分に取る配慮をお願いしたい。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体組織の研修体制が、ホームの職員にも義務付けられており、初心者研修・自己研修などが行われて、段階的に取り組まれている。また、働きながらの職員育成には、先輩職員のアドバイスが、介護の質を向上させることに繋がっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の研修を受け入れたり、また自分たちで他事業所に訪問してみて、利用者の表情や介護の方法や、職員同士の感想など、勉強になる事から、交流する事の必要性を認識している。	○	運営者の思いの中に、同業者との交流も必要だが、他業種（身障者対象の施設など）への訪問も、職員研修として意味がある交流につながることなどが話し合われた。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の中には、なかなか馴染めず、不穏な行動に出てしまうが、職員の気長な対応と、じっくりと聴くという姿勢が、利用者の心を自然に解きほぐして、徐々に毎日の生活が安定し、臨機応変に職員の対応がなされている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物をたたんだり、料理など、日常の生活の中で、利用者の中に職員も入り、礼儀作法や作り方などを学んだり、時には職員にねぎらいの言葉も出るなど、相互の関係は築かれている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートに本人の希望は聞き入れている。また、職員同士が日常の介護の中での気づいた点を情報交換ノートに記入し、利用者の意向など共有できるようなシステムがとられ、支援がなされている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活状況がチェック形式で、毎日の介護状況が確認ノート、生活日誌に記録されている。1ヶ月ごとにまとめて、三ヶ月でモニタリングを通して検討され、一年に一回介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一年に一回の見直しではあるが、介護計画を月に一回は検討し、三ヶ月目にモニタリングを行い検討し、何事もなければ継続される。もし、変化が生じた場合は、随時見直しがなされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の要望があれば、お墓参りや遠距離であっても懐かしい場所への個人外出の同行など、利用者に添った支援がなされている。病院受診も家族の都合がつかなければ、職員が支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に専門の病院に通院が必要な利用者には、日常の生活状態や健康状態の変化などを記入した病院との交換ノートが作成されている。病院からも当人に関する注意事項などが記載され、日常の介護に活かされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までターミナルまでの利用者を受け入れた経験から、入居者への説明は様々な状態を想定し話し合われている。家族の立場や、ホームの他の利用者への影響、職員の関わりなど、全ての条件が揃うことが前提との方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者から「待っていたよ！」と言われたら介護者としてプロであるとの信念から、何事も自分の立場に置き換え、自尊心を傷つけないよりよい介護を目指す取り組みを実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タバコをのむ人、コタツで寝ている人、自分の部屋が何より好きな人、職員と真剣に話している人と、一人ひとりの生活のパターンがあり、柔軟に支援がなされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、昔とった杵柄を発揮できる、盛り付けや配膳などを見守り、利用者と同じ食卓で、同じものを食べながら、サポートもしつつ楽しく食べている。毎日の献立は併設の管理栄養士にチェックを依頼している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間いつでも入れる状態のお風呂で、夕食後毎日の人や一日に二度入る人や二日に一回の人など、自由に入浴が楽しめる。また、その都度お湯を新しくするような配慮もなされている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、お掃除の手伝いなどの日常の作業や、針箱を居間に置き、雑巾縫いやボタン付けなど職員の見守りの中で、生活歴を生かした取り組みがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝のゴミだしを兼ねた散歩や、2日に一回の買物への同行、同法人のデイサービスへの訪問など、外出の機会を考慮している。また、年に1回グループホームを空にして重度の利用者も含め、家族、職員全員で、県内の旅館に一泊旅行も実施されている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 ○鍵をかけないケアの実践	入口はオートロックであるが、日中は開放が試みられ、音で職員が気づくようになっている。地域への協力も、自治会の組単位で、ボランティアに交代で参加していただき、利用者の日常の様子を理解してもらう取り組みをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月出火場所を換え、非難経路を二手に分ける訓練や、昼夜を想定して行われている。特に夜間は併設のメリットが安心に繋がっている。また食品の備蓄や毛布も用意がなされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事のメニューは、夜の団欒の時、利用者の意見や好みを取り入れて考えられている。また、体調に合わせて、とろみや刻みなど、工夫されていて、水分表や食事量はチェック方式が取られている。	○	献立表におやつの記入欄を設け、それも踏まえたチェックがあれば、正確な栄養バランスや水分量の把握に繋がる。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見晴らしがよく、高台にあるため静かで、夏は涼しく、秋は紅葉が眼下に広がる景色を眺めながら、コタツで暖をとったり食事をしている。朝日が差し込む時間帯はカーテンを閉めるが、天窓があるため以外に暖かい。利用者は好きな所でくつろげるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、利用者の好みを尊重し、干渉されたくない利用者への配慮や、馴染みの家具の持ち込むスペースも十分に活かされ、それぞれの居心地のよい居室となっている。		